

第15回 千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会

前回検討会における意見と回答

令和8年3月6日

国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所

第14回検討会における意見と回答：実施概要

■第14回検討会の概要

日程：令和7年3月24日（月）10：00～12：00

議事：

- (1) 前回検討会における意見と回答
- (2) 令和6年度の事業実施状況
- (3) 令和6年度モニタリング調査結果報告
- (4) 令和7年度の事業実施予定
- (5) 令和7年度モニタリング調査計画（案）
- (6) 地域協働の取組状況
- (7) 今後の予定

■主な意見と回答

（次スライド参照）

第14回検討会における意見と回答

No.		意見	回答
1	令和6年度の事業実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 自然再生整備は、今後も予定通りに、整備できるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 想定よりも事業に時間がかかっている。一度自然再生計画の見直し等も含めて考えていきたい。
2	令和6年度モニタリング調査結果報告	<ul style="list-style-type: none"> 鳥類調査の結果を教えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 砂礫河原を再生した箇所やその周辺にイカルチドリの営巣を確認している。 検討会に調査結果を報告した。
3	令和7年度モニタリング調査計画	<ul style="list-style-type: none"> 物理環境の調査の具体的な内容はなにか。 冠水の有無は砂礫を繁殖で利用するような鳥類には大きな影響を与えるため、フィードバックして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、水理諸量の整理を行い、今後の物理環境データのモニタリング計画について検討した。 本検討会で確認いただきたい。
4	(案)	<ul style="list-style-type: none"> 1/10洪水の発生後だけでなく、UAV写真測量等の簡易的なモニタリングで頻度を多く調査することが望ましい。 河床材料の分布も把握できると植生との関係が見える。 冠水頻度の把握には連続水位観測が有効である。 	
5		<ul style="list-style-type: none"> 密なデータ取得は難しいが、掘削砂州の水際など土砂が溜まりやすい地点に注目した調査が有効である。 	
6	地域連携の取組状況について	<ul style="list-style-type: none"> 多様な関係者が連携し、子どもたちが川に親しみ、川の楽しさと危険性を学ぶ貴重な機会となった。引き続きの協力をお願いする。 	
7		<ul style="list-style-type: none"> イベントを通じて川を知っていただく活動としてよい。さらに、広く周知していく方法を考えてい。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して連携した取組を実施していく。 長野県からの提案について、「グリーンインフラ」の視点を含めて考えると共通点も多く、川だけでなく流域全体での取り組みが重要と考えている。今後、連携を相談していきたい。
8		<ul style="list-style-type: none"> 長野県では流域治水の取り組みを進めており、共通する部分も多い。今後、このようなイベント時に千曲川河川事務所と連携することが可能か。 	